

[内子町まちづくり講演会]

～デザインの視点から、まちの魅力と活かし方を学ぶ～

2015年11月14日(土) 18:00～21:00 内子自治センター

その、あたりまえが
すごいです。

第1部
〈講演〉



デザイナー
梅原真

ナニガユタカナ
コトナノカ



デザイナー
原研哉

日本の未来資源は
日本である

第2部
〈鼎談〉

原研哉×梅原真×



資源家
鈴木輝隆

デザインの視点から
地方における
新しい価値のつくり方、
伝統の活かし方

内子町は、「町並み、村並み、山並みが美しい 持続的に発展するまち」を将来像に掲げて、独自の伝統や文化を守りながら地域の魅力を創出し、交流人口の拡大や地域経済の活性化をめざすまちづくりを推進しています。人口減少や高齢化社会の進行、地域経済の衰退が予測される中で、いかに持続可能で元気なまちをつくっていくかが今後の課題です。

秋の夕べ、さまざまな土地の町づくりに携わってきた先生方をお迎えし、これからの内子町について考える場を企画しました。ぜひご参加下さい。



写真：岡井義昭

原 研哉 Hara Kenya

デザイナー。日本デザインセンター代表。武蔵野美術大学教授。「もの」のデザインと同様に「こと」のデザインを重視して活動中。松屋銀座リニューアル、無印良品のアートディレクション、代官山蔦屋書店、二子多摩川蔦屋家電、瀬戸内国際芸術祭のデザイン・ディレクションを担当。「RE DESIGN」「HOUSE VISION」など意識の目覚めを促す多数の展覧会を制作している。NTTdocomo らくらくスマートフォンのプロダクトおよびUIデザイン、ピエール・エルメや AGF のパッケージ、無印良品「素・手・時・年」書籍編集デザインなど活動の領域は幅広い。2015 年より外務省 JAPAN HOUSE 総合プロデューサー。毎日デザイン賞、亀倉雄策賞、原弘賞、東京 ADC 賞グランプリ、D&AD Yellow Pencil、日本文化デザイン賞、サインデザイン大賞、世界で一番美しい本賞ほか、内外のデザイン賞を多数受賞。代表的な著書『デザインのデザイン』（岩波書店／サントリー学芸賞受賞）、『白』（中央公論新社）は多言語に翻訳されている。



梅原 真 Umebara Makoto

高知市生まれ。デザイナー。武蔵野美術大学客員教授。地方がユタカでなければ、その国はユタカではない。「その土地が持つチカラ」を引き出すソフトがデザインであると考えている。一次産業に、すこ〜〜〜しデザインを加え、新しい価値を生み出していく、「モノ」ではなしに「コト」のデザインを軸において仕事をしている。「ナニガユタカナコトナノカ」「地方はジブンで考えろ」をテーマに、日本最後の川、四万十川を共有財産とする、会員制度「RIVER」を2015年10月1日よりスタートさせた。著書に、『ニッポンの風景をつくりなおせ』（羽鳥書店）、『梅原デザインはまっすぐだ』原研哉との共著（羽鳥書店）など。



写真：白井 亮

鈴木輝隆 Suzuki Terutaka

資源家。江戸川大学現代社会学科特任教授。「住民自治とローカルデザイン力から地域経営」が研究テーマ。北海道ニセコ町、東川町、秋田県乳頭温泉「鶴の湯」、岩手県八幡平市、長野県小布施町、山梨県甲州市、鳥取県智頭町、大分県由布市、鹿児島県西之表市（種子島）など、全国に地域づくりのネットワークを構築している。これまで関わったローカルデザインの展示を中心に、「ミツバチ先生鈴木輝隆展」（松屋銀座・日本デザインコミティーの主催、2012年）が開催された。最近では、東京都八王子市「TAKAO 599 MUSEUM」、北海道清里町「じゃがいも焼酎」の総括コーディネーター。現在、内子町石畳地区の「小さな拠点を核とした「ふるさと集落生活圏形成推進事業」のアドバイザー。著書に、『ろーかるでさいんのおと 田舎意匠帳—あの一ひが面白い、あのまちが面白い』（全国林業改良普及協会）、『みつばち先生—ローカルデザインと人のつながり』（原研哉編、羽鳥書店）など。

【日時】2015年11月14日(土) 18:00～21:00

【会場】内子自治センター（内子町内子3427番地）

【定員】100名 【参加費】1,000円 【主催】内子町まちづくり研究会

【参加申し込み・問い合わせ先】内子町役場 自治・学習課 担当：井上

TEL: 0893-44-2114 FAX: 0893-44-6137

Email: gakusyujichi-s@town.uchiko.ehime.jp